

地域戦略人材塾

第10回「フューチャー・デザインを活用したまちづくり／自治体の事例（矢巾町）」

（講師：矢巾町企画財政課 高橋雅明先生）

コメントシートのおまとめ

今回のコメントシートには、特にご質問、ご要望等はございませんでした。皆さまの感想などを以下に取りまとめましたので、ご覧ください。

- ・ 未来人になってみることで考えが深くなった。
- ・ 未来人となることで今足りないことを客観的に考えることができると思う。
- ・ 未来人になるコツは、ホラを吹くつもりでなりきること。自分一人だと難しいですが、グループワークだとやりやすいと思いました。
- ・ 普通に考えていたら思いつかないアイデアや考えが色々と出てきた。
- ・ 総合計画の策定に活かそうと思いました。
- ・ これは、やってみないとホントにわからないですね。価値があると思います。
- ・ 現在とのしがらみを絶ち、未来の視点で考える点が業務に活かそう。
- ・ より未来を意識した視点を持って業務に取り組みねばならないと改めて感じた。
- ・ 今がよければいいのではなく、世代を超えて暮らしやすいまちづくりをする必要性を感じた。
- ・ 未来人になって考えることは想像力を働かせて「こうなったらいいな」を「こうなっていた」と言えるところが非常に面白かった。
- ・ まちづくりや応用すれば何にでも対応できそうな可能性を感じた。
- ・ 将来失敗を繰り返さないために、将来世代の視点を現在の時系列に持ち込むという考え方は理解できました。実際に未来人になってみるというのはとても難しく、確かに演技力があるなと思いました。
- ・ ワークショップのアイスブレイクに取り入れてみると面白いことができそうだったのでやってみようと思います。
- ・ 2050年のまだ見ぬ将来世代女子高生の会話
「2022年にフューチャーデザインってやってたうちのママが言ってんだけどさ、だったらタイムテレビでうちらのこと呼んでくれれば良かったのにね。的外れなことばかり

やってさ。」

「いや、2022年にタイムテレビねーだろ。ウケる。」

そうならないようにせねばと思いました。

- ・現在から未来を考えるよりも、発想の領域が増えるため、具体策を考えるときのバリエーションが多くなる。
- ・ゴール設定を30年先に置くことについての合意が難しく思う。
- ・未来から現在を見ることの、メリットを深く理解できれば、実務にも活かせる気がします。現在を軸に決めた場合の施策例と未来を軸に決めた場合の例を比較して、その違いを知ることが大事かと思いました。
- ・仮想未来人になるということ自体が新鮮で、ワークショップもどうなるかと思ってたが、意外とみんななりきって楽しく議論ができました。
- ・実際にフューチャーデザインの実践に至る（職員や地域の方々に浸透する）までには、概念的な理解や心理的ハードル等により、少し時間がかかるのかなと思いました。
- ・未来人になりきることで自分なりに想像を働かせることができ、突拍子もないことでも、楽しくディスカッションしながら考えることができた。
- ・先を見据えて物事を考えることはどの業種にとっても大事なことであり、今後の施策についてなどコミュニケーションツールの1つとしても活用できそうだと感じた。
- ・実際に実践してみたが、うまく誘導してあげないと未来人になるのは難しいと感じた
- ・今後、総合計画の策定予定があり、その際に活用できないかと思った。

お忙しい中、皆さまからたくさんのご感想等を頂戴いたしました。

皆さまの総合計画策定やワークショップで何かしら活かせそうだと

感じていただき、うれしいです。 ありがとうございます。

地域戦略人材塾 事務局